

Clarivate「Top 100グローバル・イノベーター2026」詳細分析

日本の首位奪還とアジアの台頭：
データが示す知財立国の現在地

STRATEGIC INSIGHT REPORT / 2026



エグゼクティブ・サマリー：世界イノベーションの重心移動

32

日本が世界最多の
32社選出

エレクトロニクス、自動車、
化学分野での強さが際立つ。
製造業を中心とした特許資産
の質の高さが首位維持の要因。

18

米国は歴史的
低水準へ

2012年の約45社から大幅減。
特許出願の伸び悩みとアジア
勢の相対的な台頭により、
シェアを急速に失っている。

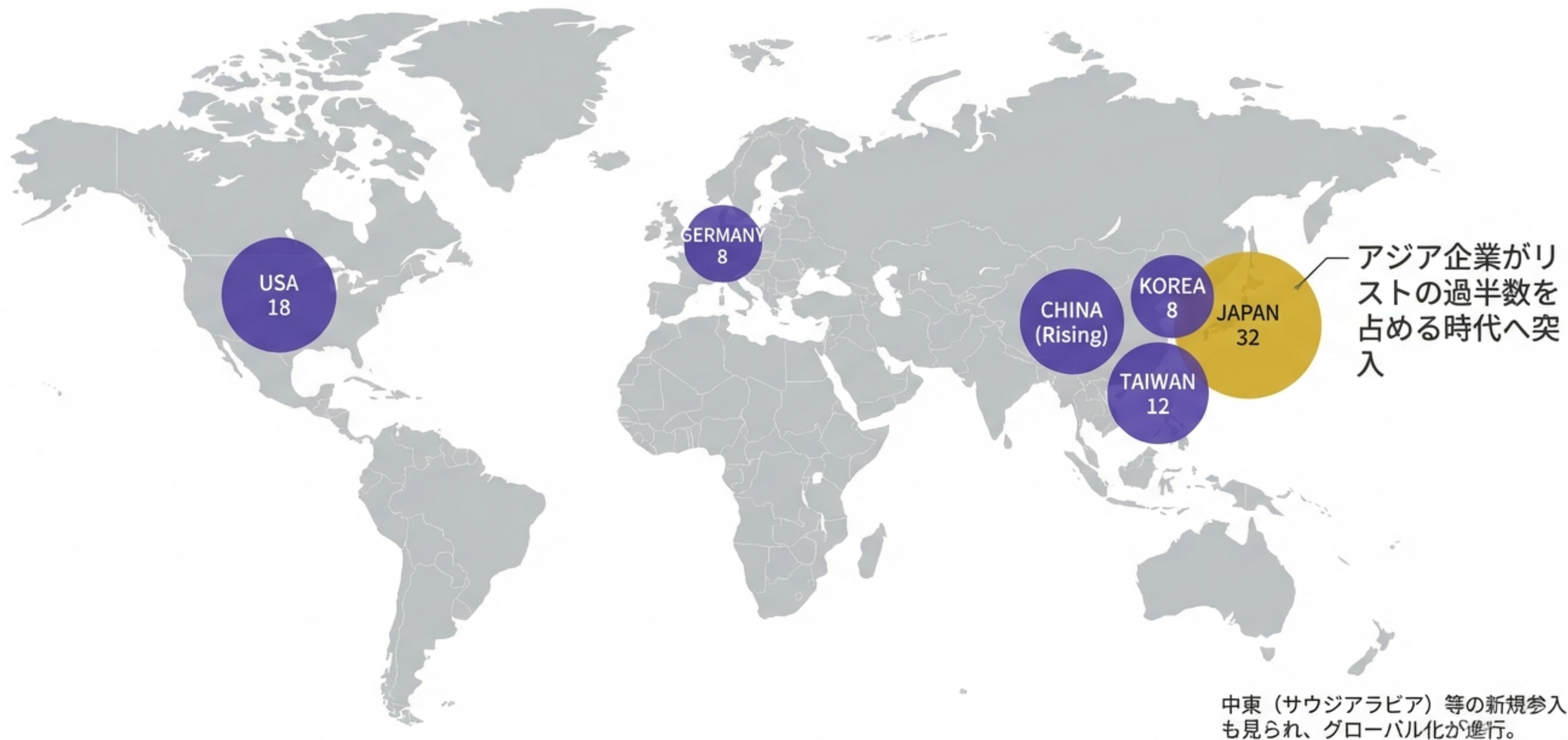
12

Taiwan

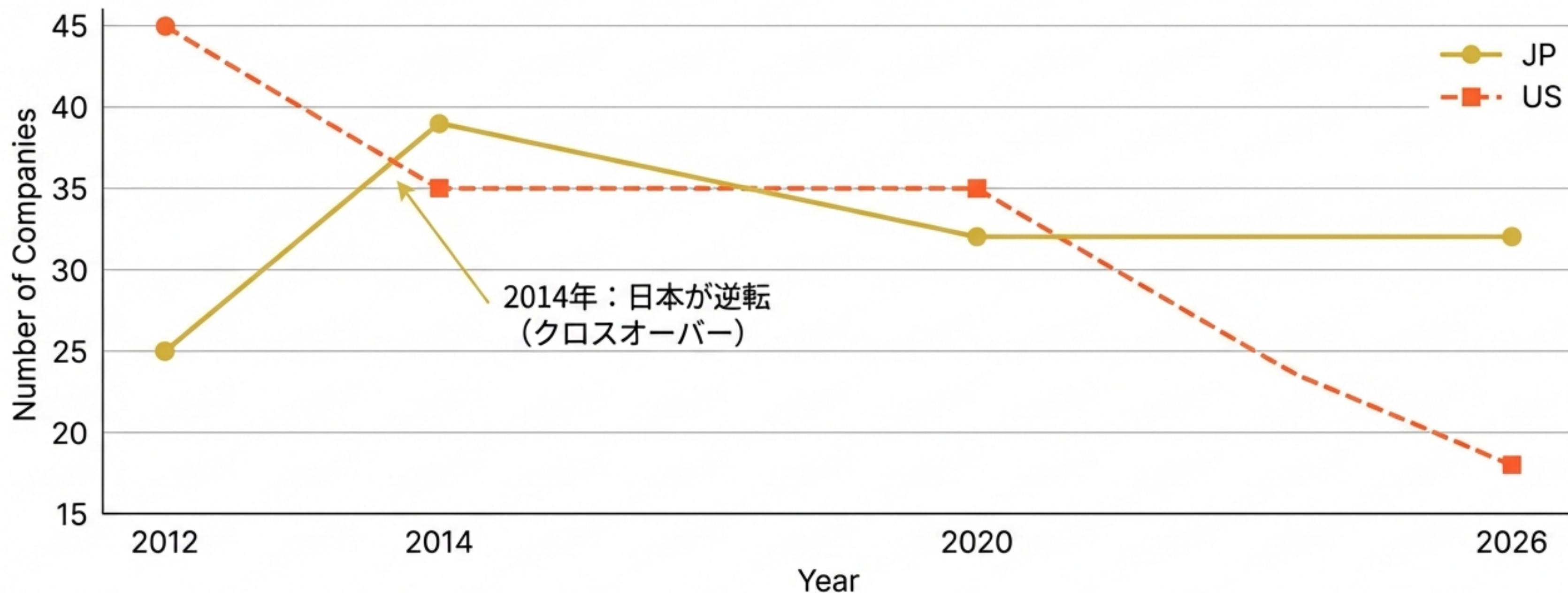
アジア勢の躍進

台湾（12社）、韓国（8社）、
中国（上昇中）がリストの大半
を占める。イノベーションの
重心は完全に欧米からアジアへ
シフトした。

イノベーションの地政学：欧米からアジアへのシフト



15年の軌跡：日米逆転の決定的な瞬間



2014年に日本がアジア勢として初めて北米を上回って以来、首位グループを維持。一方、米国は特許出願の伸び悩みとアジア企業台頭の台頭によりシェアを低下させている。

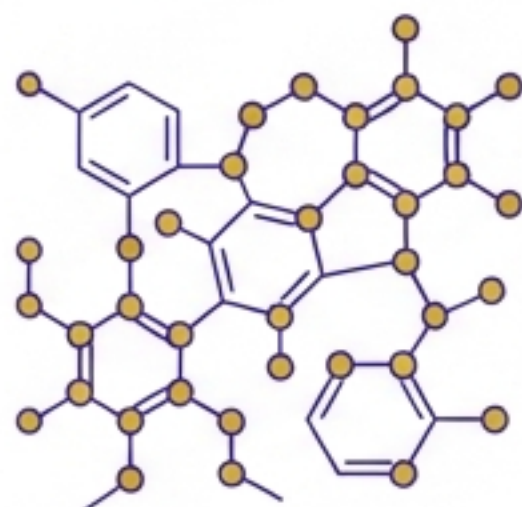
日本の選出企業32社：製造業の強固な基盤

総合電機・電子 (Electric/Electronics)	自動車・部品 (Automotive)	精密・機械 (Precision/Machinery)
Hitachi Sony Panasonic Toshiba Mitsubishi Electric NEC Fujitsu	Toyota Honda SUBARU 初選出 Denso Yazaki Sumitomo Electric	Canon Ricoh Brother Seiko Epson Mitsubishi Heavy Fanuc Daikin Nidec
素材・化学 (Materials/Chemicals)	部品・半導体 (Components/Semi)	通信 (Telecom)
Shin-Etsu Chemical Nitto Denko Sumitomo Chemical Fujifilm Kyocera	Murata TDK Tokyo Electron SCREEN Kioxia	NTT

勝因分析：「モノづくり」と「素材」の特許資産

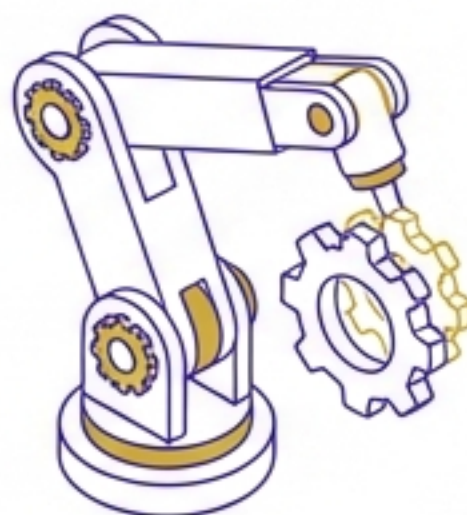
日本企業の強みは、エレクトロニクス、自動車、高機能素材などの「特許集約型製造業」にある。

Material Science (素材)



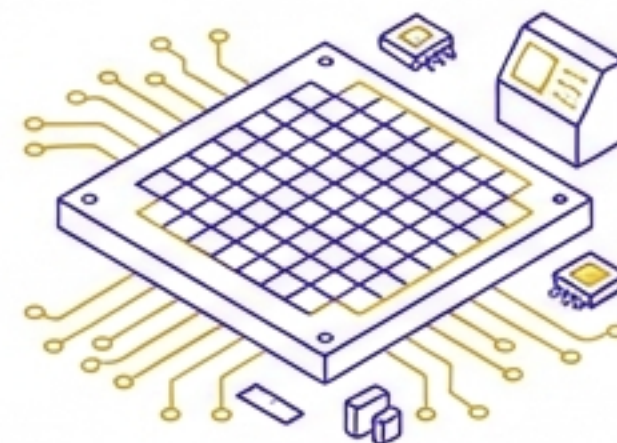
Shin-Etsu Chemicalや**Nitto Denko**など、サプライチェーン上流の素材分野で圧倒的なシェアと特許品質を誇る。

Complex Manufacturing (複合製造)



Mitsubishi Heavyや**Canon**のような精密機械分野において、複雑な技術を保護する高品質な特許ポートフォリオを持つ。

Semiconductor Equipment (半導体装置)



Tokyo Electronや**SCREEN**など、世界のチップ製造に不可欠な装置技術が評価されている。

継続と革新：15年連続の常連と新たな挑戦者

The Legends (15 Years Continuous)

2012年から連続選出の9社

Fujitsu | Hitachi | Honda | NEC | Panasonic | Shin-Etsu Chemical | Sony | Toshiba | Toyota

The Newcomers (New & Returning)

新たなプレイヤーの参入

SUBARU

2026年初選出

Nidec が 4年連続

Sumitomo Chemical が 2022年以降定着

産業構造の変化に伴い、常連企業に加え新たなプレイヤーが入れ替わることで、日本のイノベーションの新陳代謝を示している。

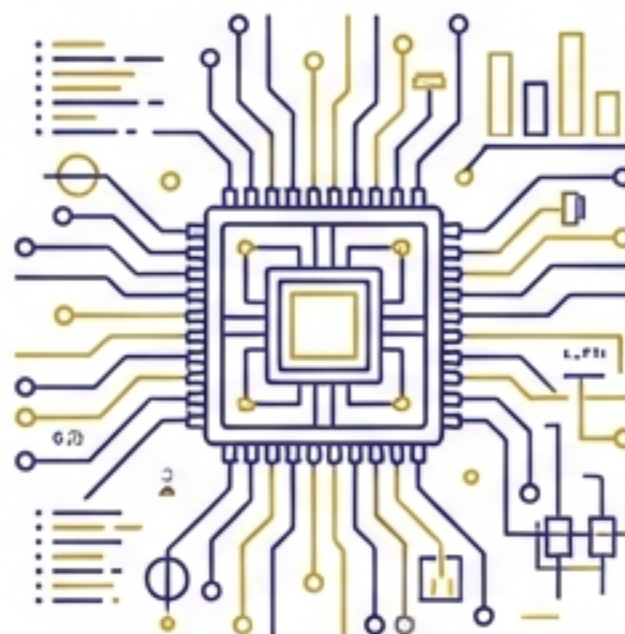
戦略的イノベーションの実例



Brother Industries (ブラザー工業)

High Success Rate (成功率)

出願した特許が高い確率で登録されており、無駄のない効率的な知財戦略を展開。



Semiconductor Leaders (東京エレクトロン / SCREEN / Kioxia)

Critical Infrastructure

市場変動の激しい半導体産業において、製造装置とメモリ技術で世界の基盤を支える特許網を構築。



Epson & Canon (セイコーエプソン・キヤノン)

Globalization (国際展開)

精密機器分野において、高い特許品質とグローバルな出願戦略（地理的投資）を両立。

評価の仕組み：4つの指標と二段階アプローチ

The 4 Evaluation Pillars



The Filter Process



評価基準の進化と高度化

2012

**Program Launch
(Thomson
Reuters時代)**

Mid-2010s

Scope Expansion
研究機関（CNRS, ITRI等）
も評価対象に追加。

Recent Years

**Derwent Strength
Index導入**
総合指標による高度な分析
モデルへ。

2026 & Future

**Continuous
Validation**
評価モデルは毎年検証され、
単なる特許数競争ではなく
「質」をより正確に測る方向
へ進化。

ランキングの意義：隠れた技術力の「見える化」



客観性 (Objectivity)

主観や評判ではなく、引用数や登録率という客観的なデータに基づいている。



世界基準 (Global Standard)

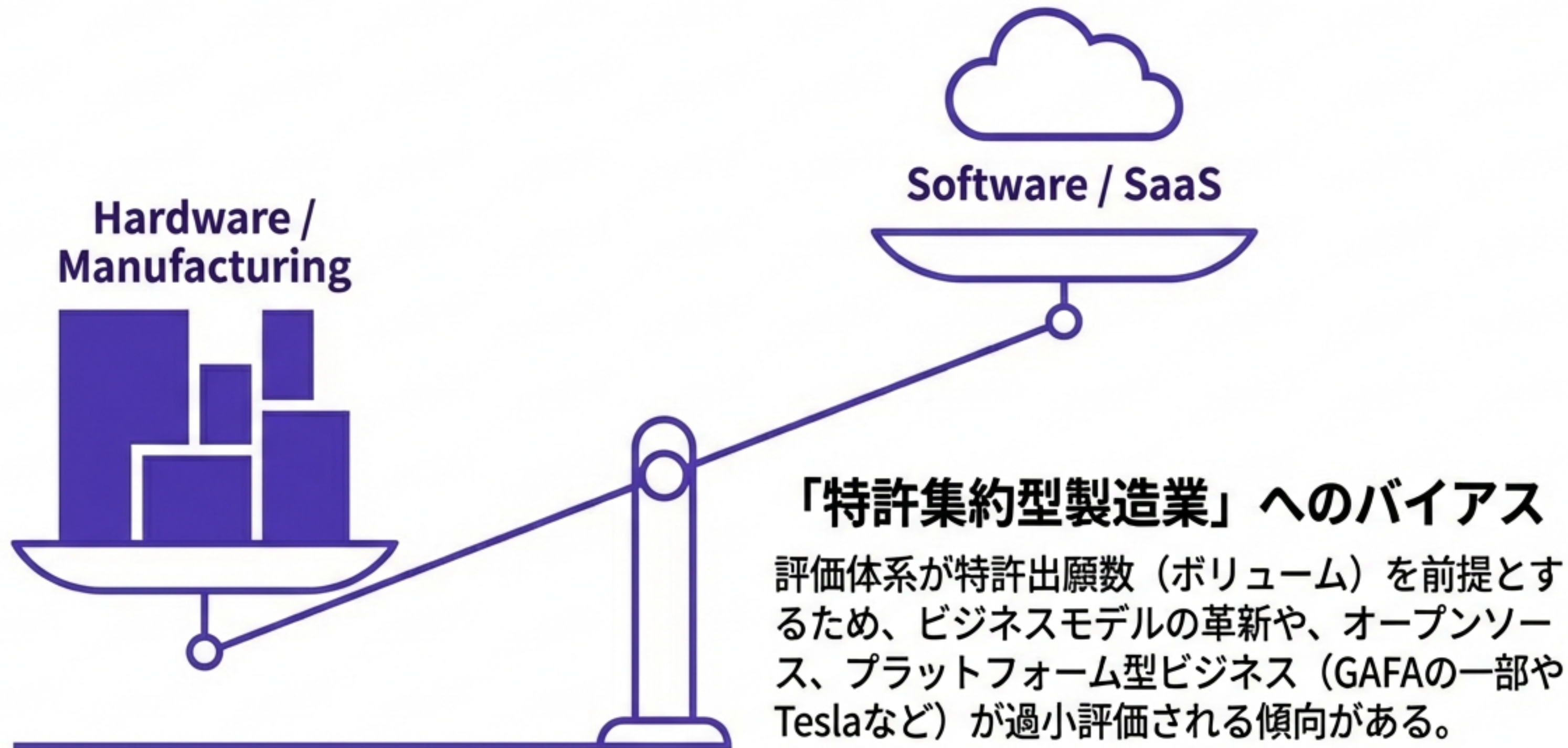
国境を超えた比較が可能。日本企業が欧米の巨大企業と互角以上に渡り合える技術品質を持つことを証明。



モチベーションと ブランディング

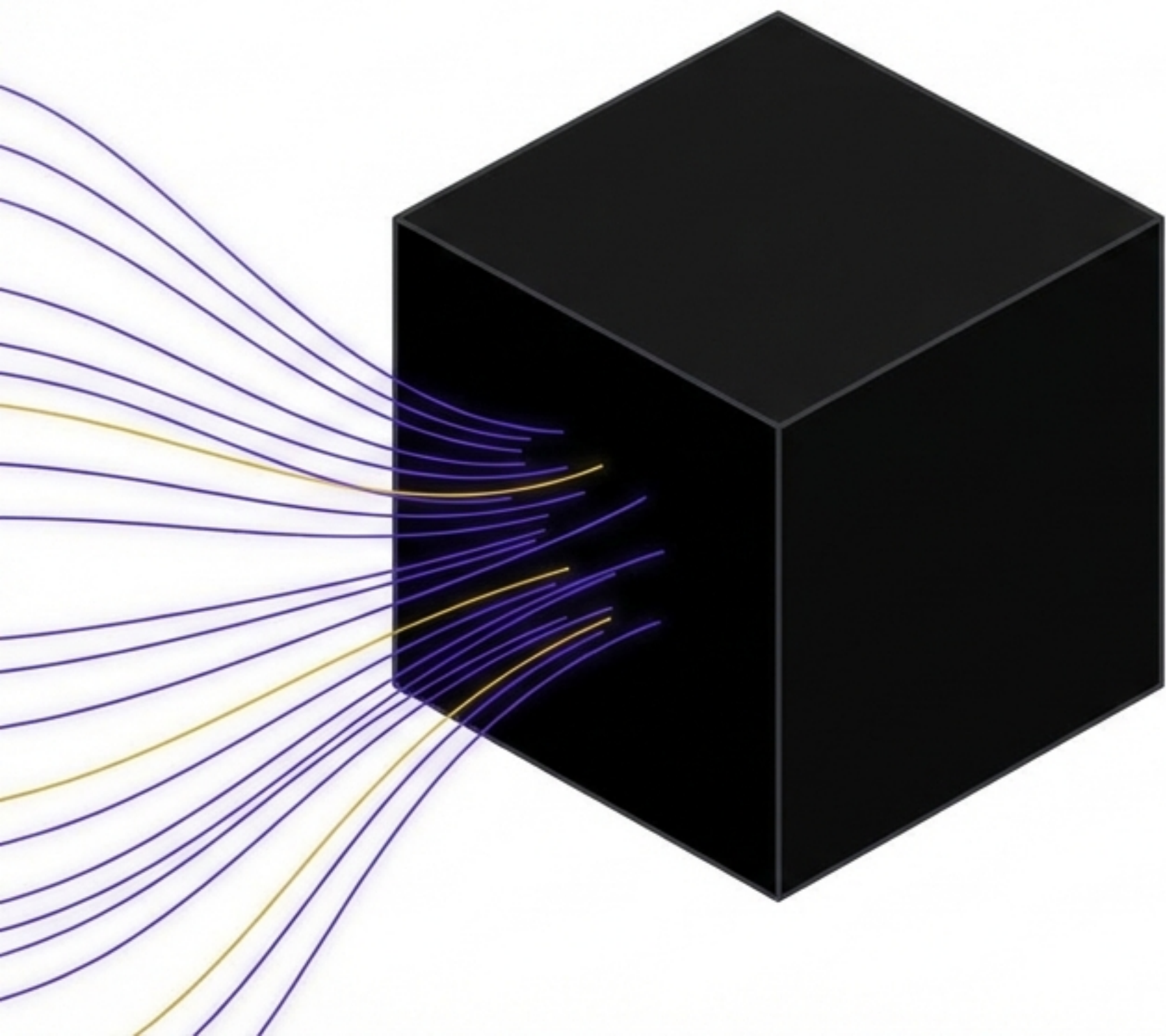
R&D部門への動機付けや、長期的な投資戦略の正当性を投資家に示すIRツールとして機能。

批判的視点：特許偏重とソフトウェアの死角



「Patent Innovation」 ≠ 「Business Model Innovation」という限界を理解する必要がある。

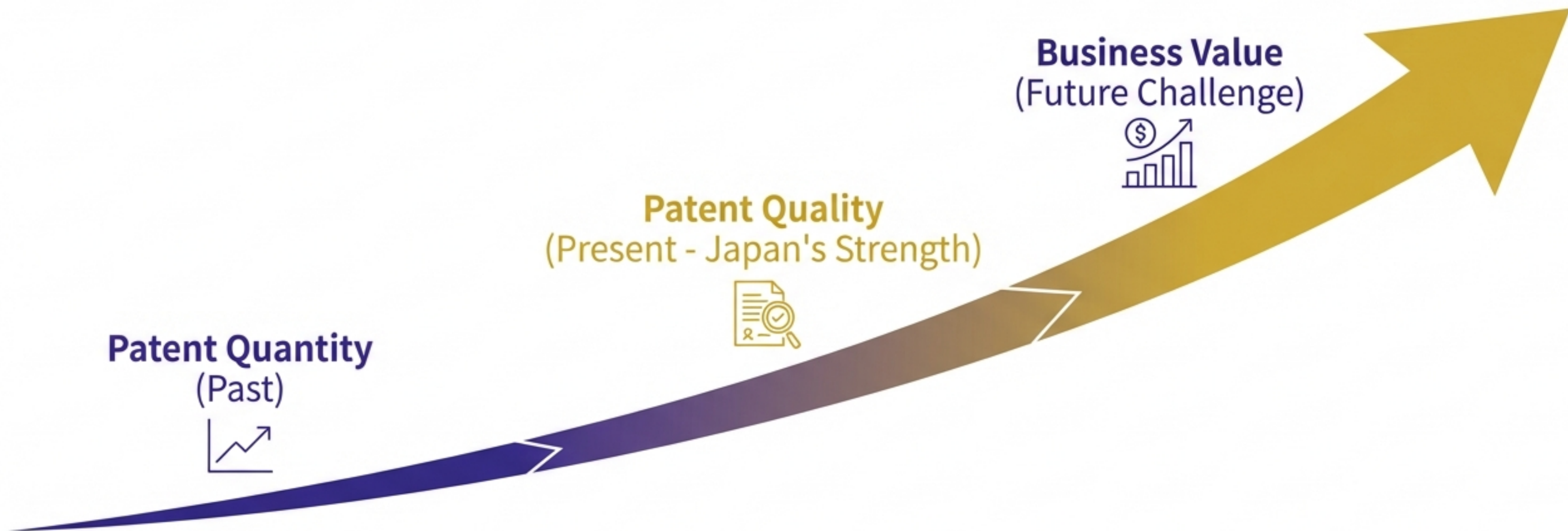
「ブラックボックス」の課題



アルゴリズムの不透明性

- 具体的なスコア算出方法は非公開。
- なぜ選外になったのか、何を改善すればよいのか、企業側が具体的に把握することは困難。
- 一部では、主催者（Clarivate）のデータベース販促ツールとしての側面も指摘されている。

結論：量から質、そしてビジネス価値へ



日本は「有形技術（ハードウェア・素材）」の特許資産において世界最強のポジションにある。今後はこの高品質な資産を、いかに新しいビジネスモデルやプラットフォームへと昇華させ、市場価値に転換できるかが勝負となる。

参考資料：Top 100選出 日本企業全32社リスト

Brother（ブラザー工業）	Honda（本田技研工業）	Nitto Denko（日東電工）	SUBARU
Canon（キヤノン）	Kioxia（キオクシア）	NTT	Sumitomo Chemical（住友化学）
Daikin（ダイキン工業）	Kyocera（京セラ）	Panasonic（パナソニック）	Sumitomo Electric（住友電工）
Denso（デンソー）	Mitsubishi Electric（三菱電機）	Ricoh（リコー）	TDK
Fanuc（ファナック）	Mitsubishi Heavy（三菱重工業）	SCREEN	Tokyo Electron（東京エレクトロン）
Fujifilm（富士フイルム）	Murata（村田製作所）	Seiko Epson（セイコーエプソン）	Toshiba（東芝）
Fujitsu（富士通）	NEC（日本電気）	Shin-Etsu（信越化学）	Toyota（トヨタ自動車）
Hitachi（日立製作所）	Nidec（ニデック）	Sony（ソニー）	Yazaki（矢崎総業）